真岡市議会議員

お世話になります！

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこと未来をつくる会　〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4　Tel. 0285-82-6285
ホームページ http://www.nakamurakazuhiko.com　e-mail tonpei@i-berry.ne.jp

vol.54

市民と市政のかけ橋になりたい！

☆**お気軽にお声をかけて下さい。**
お友達との井戸端会議、勉強会等。２～３人でも結構です。どこへでもお伺いいたします。

☆**あなたのアイディアを市政にいかしたい！**
お気づきの点がございましたら、どんなささいなことでも結構です。ぜひご意見を！

「見逃した！」という方に
バックナンバーをお送りします

これまで『未来をつくる会』では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ました。1～53号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。
こちらからお送りさせていただきます。

次回発行予定日

次回の「中村かずひこ通信」は **1月29日(日)** 発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧下さい。

9月定例議会報告　9/1▶9/23

9月定例議会が、9月1日(木)から23日(金)の23日間にわたって行われました。

今回、執行部から提出された議案は、平成27年度の一般会計・特別会計・水道事業会計の決算のほか、監査委員や教育委員会委員などの選任に関する人事案件、山前小学校改築工事や中村小学校増築工事などの工事請負契約、さらに青森県十和田市との災害時における相互応援協定など計18件で、いずれも原案通り可決されました。

一般質問

中村が行った一般質問の内容

1.投票率向上等の課題について
(1)7月に行われた参議院議員選挙について
(2)主権者教育について
(3)投票所のあり方について

2.防災対策について
(1)防災計画の見直し等について
(2)災害図上訓練の普及について
(3)高齢者や障がい者等への対応について

3.今後の観光戦略について
(1)観光客入込数について
(2)コンセプト・動線の構築について
(3)大学生等の合宿誘致について
(4)NHK大河ドラマの誘致活動について

4.起業家の支援について
(1)『チャレンジショップ』及び『空き店舗バンク』について

議員による質疑・一般質問は、7日(水)、8日(木)の2日間行われ、中村は8日の2人目として登壇。計4件の課題について一般質問を行いました。

執行部は答弁の中で、災害時でも業務を続けるために職員の参集体制などを定める『業務継続計画』を今年度末までに策定を予定していること。また、視覚障がい者向けの防災マップの作成を今後検討していくことなどを明らかにしました。

(中面に関連記事)

平成27年度　決算審査特別委員会

また、20日(火)に行われた『平成27年度決算審査特別委員会』において、中村は以下の10項目について質疑を行いました。

1.みんなでつくる地域づくり事業費(ごみ減量推進事業)について
2.地域情報通信基盤設備費(CATV関係)について
3.自主防災組織育成費について
4.人材育成費(市職員の研修関係)について
5.ふるさと寄附推進事業費について
6.不法投棄防止対策事業費について
7.観光対策費(栃木県アンテナショップ関係)について
8.市税(個人市民税、法人市民税、固定資産税)の滞納状況と対策について
9.市たばこ税について
10.雑入の収入未済額と不能欠損額の理由について

反対討論

さらに、9月定例議会の最終日である23日(金)、中村は提出されていた議案の1つである『一般会計補正予算』のうち『まちかど美術館整備事業』の部分について、

①高齢者や障がい者などにとって利用が困難な施設整備の計画であること
②自然災害や火災が発生した場合の避難経路に不安が残ること
③建物の構造上、作品の搬出入にも支障をきたす恐れがあること

などの理由から、反対の立場で討論を行いました。

「まちかど美術館」予定地と建物内の階段の現状

(反対討論の概要は裏面のコラムに掲載)

質問:中村かずひこ

中村かずひこ議会レポート

9月定例議会　一般質問

【答弁者】
井田　隆一　市長
成毛　純一　産業環境部長
上野　雅史　選挙管理委員会書記長

1.投票率向上等の課題 について

質問 7月10日に投開票が行われた**参院選**から、**選挙権年齢**が**『18歳以上』**に引き下げられた。
しかし、**真岡市**での**投票率**を見てみると**全体**では**52.57%、18～19歳に限定**すると**42.90%**という結果だった。
この投票率について、選挙管理委員会はどのように捉えているのか。

答弁 真岡市における**参院選の投票率**は、全国平均(54.70%)は下回ったものの県平均(51.38%)は上回り、県内14市中5番目の数字であった。
これについては、**期日前投票所増設の効果**が出たものと捉えている。
18～19歳の投票率は、全国の速報値(45.45%)を下回ってはいるものの3年前の参院選における20代の投票率(33.37%)を上回り、**高校での取り組みの効果**などが出たのではないかと考えている。

質問 選挙権年齢の引き下により、子ども達に向けた**主権者教育**がこれまで以上に重要視されている。
全国各地の自治体では、**選挙管理委員会による出前授業**や**意見交換会**、さらには**模擬選挙**などに取り組んでいる事例が数多く見受けられる。
真岡市では**今後どのように**主権者教育を**展開していく考え**なのか。

答弁 選挙管理委員会では小中学生に対して、**啓発紙の配布**や**啓発ポスターの募集**、生徒会選挙時の**投票箱**や**記載台の貸し出し**を通じて、選挙に対する関心を喚起するための活動を実施している。
また、高校生に対しても、学校側の要望に応じて同様の取り組みのほか、**出前講座による模擬投票体験**などを行っている。
今後も各学校と連携、協力していきたい。

質問 真岡市内を見渡すと、例えば熊倉4区のように**最寄りの投票所とは異なる場所**が**投票所として指定**されているケースを目にする。
特に高齢になった市民からは、交通手段が乏しい中で投票所まで足を運ぶことが難しくなっているとの指摘も受けている。
今後、**投票所の見直し**を**行う考えは**あるのか。

答弁 投票所の区割りについては、有権者数のバランスや投票所までの距離、自治会のつながりなどを踏まえて行う必要がある。
また、**国の見直しの基準**としている『**投票所**から**選挙人の住所**までの距離が**3km**』を**超えるところはない**ので、現時点において見直しは考えていない。

2.防災対策 について

質問 **関東・東北豪雨**から早いもので1年が経つ。あの時、真岡市に甚大な被害はなかったが、水害の際に河川付近の住民はどこに避難すればいいのかなど、**改善すべき点**が浮き彫りになった。
避難所のあり方については、『地域防災計画』の見直しに合わせて検討するとのことであったが、**その後の進捗状況**はどのようになっているのか。
また、自治体が災害時でも必要な業務を続けるための**『業務継続計画』**が、**真岡市では未策定**である。対応を急ぐべきと思うが。

答弁 現在、上位計画である**『栃木県地域防災計画』**が、関東・東北豪雨や熊本地震で見られた課題などを踏まえて見直し中であり、**今年12月に策定予定**である。真岡市としては、**同計画の内容を踏まえて**『地域防災計画』の**見直し作業**を進めていく。
また、**『業務継続計画』**は、災害時における職員の参集体制や行政データのバックアップなどを定めるもので、県内では14市中6市が策定している状況にある。
真岡市でも策定に向けた作業中であり、**今年度末を目途に策定**していきたい。

質問 全国各地の自治体では、DIG(Disaster Imagination Game)やHUG(避難所運営ゲーム)といった**災害図上訓練**を、市民の勉強会や職員研修などで取り入れている所も多い。
真岡市でも、**防災リーダー養成講座**などで取り組まれるようにはなったが、決して**十分とは言い難い。**防災意識の高揚のためにも、普及させる必要があると思うが。

答弁 真岡市では、平成25年度に物部地区の区長や消防団を対象として、初めて災害図上訓練を実施した。その後、26年度からは防災リーダー養成研修会において、災害図上訓練を実施してきた。
今後も、防災リーダー養成研修会で災害図上訓練を引き続き取り入れるほか、**各地区においても実施されるよう支援**していきたい。

質問 4月に発生した熊本地震では、**高齢者**や**障がい者**など自力避難が困難な**要支援者への対応**が大きな課題となった。**真岡市**では要支援者の**名簿作成**はすでに**完了**しているが、個人情報保護という課題もある中で、**今後どのように活用**を図るのか。
また、災害発生時に取るべき対応などをまとめた**防災マップ**を発行しているが、掲載されている情報は**視覚障がい者などには伝わりにくい。**改善の余地があると思うが。

答弁 **要支援者の名簿**については、すでに**警察署**と**消防本部**に**提供**している。また、迅速な避難支援につなげるため、**今年10月中**に**民生委員、自治会、消防団などの関係者にも**提供できるよう準備を進めている。
また、障がい者への情報提供は重要なことである。現時点で**視覚障がい者向けの防災マップ**を作成してる**県内自治体はないが、今後検討**をしていきたい。

3.今後の観光戦略 について

質問 栃木県の発表によれば、**真岡市の観光客入込数**は、東日本大震災前の平成22年が280万6703人であるのに対して、27年は286万5612人で、**約2%の伸び**(県全体では約6%の伸び)となっている。
この伸びについて**どのように捉えているのか**。また、今後増加させるための取り組みは。

答弁 これまで年間を通じた各種行事などの開催や、観光情報の発信などを含め、**観光振興に伴う活動は順調**に進んでいると考えている。
『市勢発展長期計画』や『まち・ひと・しごと創生総合戦略』に掲げている目標は、**平成31年度**の**観光客入込数**を**300万人**としている。今後、デスティネーションキャンペーンをはじめとする施策の展開により、交流人口の増大に努めていく。

質問 今、全国どの自治体でも、観光については取り分けて力を入れている。その中で選ばれるまちになるためには、他にはない独自性とストーリー性を示すことが何よりも大切である。真岡市の**観光施策**として、何か**明確なコンセプト**を設定すべきではないか。
また、真岡市の**観光資源**を見ると、**市内全域に点在**しており、回遊が困難であることが真岡の観光の泣きどころと言える。**動線の構築**をどのように考えているのか。

答弁 真岡市の観光は**『観る、食べる、体験する』**をコンセプトとして、SLキューロク館と久保記念観光文化交流館をつなぐエリアを回遊しながらの**体験型観光を推進**している。
また、真岡市の観光施設は市内全域に点在している状況である。今後、多種多様な観光客のニーズに対応するため、**交通手段に関するアンケートを実施**し、観光ルートの回遊性を高める手法について調査・研究をしていく。

質問 毎年**2～3月**と**9月**は、市内の**宿泊施設**の**稼働率**が**最も低い**と言われている。
一方、この時期は大学、特に**私立大学**が**休業中**であることから、**サークル**や**ゼミの合宿**が非常に多く実施されている。
そこで、大学生などの合宿を**真岡市に誘致する取り組みを**進めることはできないものか。
合宿という性質上、交通の便の悪さはあまりハンディにならず、むしろ首都圏から近いという強みを活かせる分野と思われるが。

答弁 真岡市を**合宿目的で訪れた人々**は、昨年7月から今年8月までの期間で、**20件689名**いる。これらは、一部の宿泊事業者が、自らの営業活動で確保しているものである。
大学生などの合宿誘致は、地域経済の活性化につながるとは考えるが、**運動施設の予約確保**や観光事業者との連携など**多くの課題**がある。
そのため、**現時点では考えていない**。

質問 伊能忠敬の出身地である**千葉県香取市**では、**NHK大河ドラマの誘致**に向けて、のぼりやポスターを掲げるなど**市民全体で運動**を盛り上げている。
真岡市においても、**二宮尊徳翁**が**大河ドラマの題材**となるよう、**より積極的な誘致活動を**展開してはどうか。尊徳翁が生きた時代は、低成長の時代で自然災害が度重なるなど、今日と極めて似ており、我々が学ぶべき点も多いと思うが。

答弁 真岡市は、尊徳翁ゆかりの17市町村で組織する**『全国報徳研究会市町村協議会』**に加盟し、その中の**『NHK大河ドラマ推進委員会』**のメンバーとなっている。
これまでは、NHK側がドラマ性などの理由から大河ドラマ化に難色を示していた。しかし、平成24年に主人公の選定状況を確認したところ、**尊徳も歴史上の人物候補の1人ではあるとの回答**を得ている。今後も引き続き、大河ドラマに取り上げられるよう要望していく。

2.起業家の支援 について

質問 **平成29年度**から『まち・ひと・しごと創生総合戦略』の一環として、起業家の中でも小売業などを対象にした**『チャレンジショップ支援事業』**の実施を計画しているが、**現在までの進捗状況**はどのようになっているのか。
また、この事業を成功させるには店舗の確保が大きなカギとなるが、**『空き店舗バンク』の活用**はどこまで話が進んでいるのか。

答弁 **『チャレンジショップ』**の開設に向けて、真岡商工会議所と運営方法などについて協議を進めている。設置場所については、多くの来客が望める**通り沿いの空き店舗の活用**を考えており、早期の開設に向けて店舗の所有者との交渉を進めていく。
『空き店舗バンク』については、真岡商工会議所とにのみや商工会で運用しているが、**登録件数は3件**と少ない。引き続き各商工団体と連携し、この制度の充実を図っていきたい。

再質問

主権者教育について

質問 参院選における**18〜19歳**の**投票率**の**全国平均**を詳しく見てみると、**18歳**が**51.17%**、**19歳**が**39.66%**となっており、時間をかけて主権者教育を行えた18歳の投票率が大きく上回っている。それだけ**主権者教育は重要**であることを物語ってる。しかし、先ほどの答弁だと今後の具体的な取り組みが見えてこないのだが。

答弁 昨年から今年にかけて、真岡工業高校では生徒会役員選挙の際に**投票箱**や**記載台**の**貸し出し**を行ったほか、真岡北陵高校でも**出前講座**も実施した。
今後も、各学校の要請に応じて主権者教育を行っていきたい。

要望 『各学校の要請に応じて』という**受け身の姿勢でいいのか疑問**に感じる。
特に、今年の秋は知事選、来年春は市長選を控えており、もっと選挙管理委員会から積極的な働きかけを行うべきではないかと思われる。

投票所のあり方について

質問 現在、真岡市内には**43ヶ所**の**投票所**があるが、これが**固定化**されたのは**いつのことか**。

答弁 過去からの経緯が相当あり、固定化された時期については**把握していない**。

質問 市民から投票所の**変更を求める要望**というのは、この数年間でどのくらいあったのか。

答弁 区長から正式な形で要望があったのは熊倉4区のみである。ただし『あちらの投票所の方が近いので』という**個別の要望については何件か受けている**。

質問 高齢者から『投票所が遠くて行けなくなった』という声がある中で、何の見直しを行わないのであれば、**選挙管理委員会が『選挙に行くな』と言っているのと同じ**である。
高齢化など社会情勢が大きく変化している今日、どこかのタイミングで投票所の見直しという作業は必要ではないか。

答弁 これから社会情勢も変わってくるので**絶対に見直さないと言っている訳ではないが**、有権者数のバランスや投票所までの距離、自治会のつながりなどを考慮すると**現時点では難しい**。

防災計画の見直しについて

質問 **地域防災計画**は、平成25年度と26年度に見直されており、**今回**が**東日本大震災以降3回目の見直し**である。国や県の動きに合わせて見直すことは分かるが、新たな災害が発生する度に見直しているようにも映る。
市単独で見直せる部分については、**もっと専門家の意見を仰いでは**どうか。

答弁 **国**や**県**の**計画との整合性を図る必要**があるため、市単独で専門家の意見を仰ぐことは難しい。
ただし、地域防災**計画以外での災害対応**に関する部分については、そうしたことも**できるとは思う**。

観光施策のコンセプトについて

質問 現時点において**『真岡らしさ』**というものが**観光客に今一つ伝わっていない**のではないか。そのことが結果として、観光客入込数が県平均で6%伸びているのに対して、真岡市は2%にとどまっている要因にもなっているのではないか。
もっと**観光戦略の絞り込みが必要**と思うが。

答弁 今後の方向性としては**『新旧とりまぜた観光』**ということであると考えている。
歴史的な観光資源とともに、新たなものをつくりだすことも重要であり、それぞれに磨きをかけていくことが欠かせないと思っている。

要望 前回の6月定例議会の際に、東京教育大学の故唐澤富太郎名誉教授の話を紹介したが、**真岡市**は**歴史的に見ても『教育のまち』**であると私は考える。
『教育のまち』には、それに**ふさわしい観光**のあり方というものがあるはずで、それは**『学びの観光』**であり、**『体験型観光』**ではないだろうか。
そうした部分は、**もっと前面に押し出すべき**ではないかと思う。

大学生などへの合宿誘致について

質問 **合宿**というのは集団でやってくる。つまり**観光客を大幅に増やせる。**しかも、宿泊をするので**確実に地元にお金も落ちる。**
先ほどの答弁では、運動施設の確保などの問題を上げていたが、ゼミやサークルの合宿にまで視野を広げれば、決して難しいものとは思えないのだが。

答弁 観光は、腰を据えてやらねばならない大切な分野であると考えている。
今後、デスティネーションキャンペーンの様々な取り組みも進める必要があり、そうした中で**オールシーズンに対応した観光開発を**していきたい。

NHK大河ドラマの誘致について

要望 先ほど紹介した千葉県香取市では、大河ドラマの題材に伊能忠敬が取り上げられるための誘致運動が第2〜第3ステージに移行しており、市民全体で盛り上がっている。
ぜひとも、10月に行われる**報徳サミット**では、**加盟自治体**の**住民全体**で**盛り上がれる誘致運動**をご提案いただきたい。

『チャレンジショップ』について

質問 **『チャレンジショップ』**は来年度スタートする事業である。
いつ頃までに、どのくらいの空き店舗数を確保して、どのタイミングでスタートするのか、そうした**工程表が必要**と思うが。

答弁 現時点で活用する空き店舗は1店舗を予定しており、その中に事業者がいくつ入るか検討しているところである。
店舗については、現在1つ1つの**空き店舗**について、**所有者を確認**しながら**意向調査を行っている。**

要望 今年7月に、**県内外**の**若手議員有志**が真岡市で研修会を行ったが、参加したどの議員からも、市役所から真岡駅の間にある**空き店舗の多さ**を指摘された。
それだけ、空き店舗が**真岡市のイメージを大きく低下**させてしまっている。
空き店舗の解消のために、**『チャレンジショップ』**は**有効な手段**であるので、ぜひとも積極的な施策の展開をお願いしたい。

民生文教常任委員会

行政視察報告

7月12日（火）～14日（木）にかけて、真岡市議会の民生文教常任委員会では、京都府京都市と福井県敦賀市、越前市へ行政視察に赴きました。
今回の視察のテーマは、①廃校後の校舎の利活用、②学力向上、③子育て環境の整備でした。

京都市

京都市では、最も多い時期に68校あった中心市街地の小学校が、現在は17校にまで統合再編されている。そうした中、市役所内に『資産活用推進室』を立ち上げ、廃校後の校舎の利活用を進めてきた。

今回我々が視察をしたのは、小学校跡に開設された『京都芸術センター』と『京都国際マンガミュージアム』。

京都市で小学校の統廃合を進めたのは中心市街地であるのに対して、真岡市では統廃合の予定校が市街化調整区域にあることなどは差し引いて考える必要がある。しかし、地域の特性や課題を見極め、民間の知恵も活用しながら、廃校後の校舎の活用を進めている点は、今後真岡市でも参考にすべきである。

敦賀市

敦賀市では、上野弘教育長のリーダシップの下、今年3月に『敦賀市知・徳・体充実プラン』が取りまとめられた。

それ以前も、同市は子ども達の教育に特段の力を入れており、市独自の学力テストの実施や、教員対象の研修の充実化などの取り組みが展開されてきた。

今回策定されたプランで特筆すべきなのは、学力向上をはじめ道徳教育や食育、ふるさと教育、学校図書館充実化など、ともすればバラバラな対応になってしまう教育課題について、子ども達の0～15歳のどの時期に、どのような取り組みをするのか体系化し、教育関係者はもちろんのこと、保護者や一般市民にも分かりやすい形に可視化を進めたことである。

越前市

越前市は、平成20年度の調査で、合計特殊出生率が1.34（国1.42　福井県1.58）で、国や県の平均を下回る状態となり、『子育て環境の整備』が、市を挙げての課題となった。

平成24年に、同市が『子ども条例』を制定させたのには、そうした背景がある。条例制定にあたっては、専門家はもとより、多くの市民、取り分けて子ども達をも巻き込んでワークショップを繰り返し行うほどの力の入れようだった。

現在、この条例に基づき、ワンストップで子育ての相談ができる『子ども・子育て総合相談窓口』の開設や『発達支援自立システム』の構築など、先進的な取り組みを進めている。

今回の視察では、右記の金額が公費でまかなわれました。
※当然のことですが、視察中の飲食代は全て議員の個人負担です。
※議員日当（3,300円×3日）の是非については、今後も課題としていきたいと考えております。

総額	77,190円	内訳	交通費、宿泊費、議員日当など
出所	議会費のうち旅費		

コラム ずーむあっぷ

近年、真岡市は観光事業に力を入れており、平成２５年４月に『ＳＬキューロク館』、そして２６年１０月には『久保記念観光文化交流館』と２つの観光施設も立て続けにオープンさせてきた。しかし、今回ばかりは『ちょっと待ってくれ』という思いを強くしている。

９月定例議会に出された議案の中に、『まちかど美術館』の整備事業費というものがあった。これは、田町地区にある空き店舗の２、３階部分を活用し、プロの芸術家や市民の文化活動の発表拠点とするもので、ＳＬキューロク館と久保記念観光文化交流館を結ぶ施設として、観光客の回遊性を高めることも期待されている。

しかし、この空き店舗はエレベーターなどがなく、来場者は必ず階段を使わなければならない。つまり、足腰に不安を抱える高齢者が入りにくいのはもちろんだが、車いすが必要な障がい者や、ベビーカーを使用する子育て世代などは、この施設を使うことさえできないということになる。

『まちかど美術館』は、市が約１５００万円もの公費を投じて整備する公共施設に他ならない。市民の血税を用いるにもかかわらず、当初から排除される市民が存在するという事態はあってはならないことである。

また、この施設は観光客の回遊性を高めることも目的の１つだが、市民が行きにくい施設は、疑う余地もなく観光客にとっても行きにくい。そのような施設に、どうして回遊性が期待できるのだろうか。

ちょっと待った！
～『まちかど美術館』について考える～

これまで執行部は、観光事業に対する考え方として、交流人口を増やすだけでなく、真岡市のイメージを向上させ、定住促進にもつなげたいということを一貫して言ってきた。そのことについては高く評価したい。しかし、高齢者や障がい者、そして子育て世代などが行きにくい施設を、これからあえてつくろうとしている自治体に、市民や観光客がプラスのイメージを抱くとは思えない。

ちなみに、この空き店舗の現場を見ると分かることだが、階段の幅が８５ｃｍしかない。万が一、地震などの自然災害や火災が発生した場合、避難経路に大きな不安が残る。安全性に疑問が残る施設にお客様を迎えるということは、失礼という以前に絶対に避けるべきである。加えて、作品の搬出入も困難であることは想像に難くなく、美術品のギャラリーとして機能を果たせるのかという点でも疑問である。

これほど課題が山積しているにもかかわらず、なぜ議会に議案として出てきたのか。９月定例議会で議決しなければないらないほど、緊急性を伴うものなのか。より適した場所を見つけるまで、時間をかけてもよかったのではないか。市議を１４年間務めさせていただいているが、ここまで首をかしげた議案に出くわしたのは、正直申し上げて初めてである。

最近、テレビを見ていると、東京都の豊洲市場の問題が連日報じられ、議会の対応についても厳しい視線が注がれている。この度の議案は、我々真岡の市議達がしっかりとブレーキを踏まねばならないものだったと思う。

結局、賛成多数（賛成１５、反対５）で可決してしまったが、開設後に市民から様々なご指摘・ご批判を受けることも予想される。私も厳しい目でチェックをしていかなければと思っている。

中村かずひこ活動日誌

7月

1日	叙勲祝賀会
4日	あいさつボランティア
5日	市民会館運営審議会
6日	真岡新聞音訳作業（『ひばりの会』の活動として）
7日	中村南小学校にて読み聞かせ（『ひばりの会』の活動として）
9日	真岡自然観察会会計監査
11日	あいさつボランティア 議会活性化等検討委員会 議員協議会
12~14日	民生文教常任委員会行政視察（京都府京都市、福井県敦賀市、越前市）
15日	栃木県市議会議長会議員研修（於:宇都宮市）
16日	真岡市遺族連合会研修（靖国神社ほか）
18日	菅野喜明・伊達市議の真岡市内視察に同行
19日	関東若手市議会議員の会栃木ブロック研修会
22~24日	真岡の夏祭り
26日	関東若手市議会議員の会役員会・研修会（於:東京都豊島区）
28~29日	全国若手市議会議員の会役員会・研修会（於:北海道札幌市）
30日	真岡自然観察会総会・バス研修（於:群馬県高崎市ほか）
31日	コットンウェイ硬式野球倶楽部 全日本クラブ選手権関東予選応援（於:埼玉県さいたま市）

8月

1~2日	関東若手市議会議員の会総会・研修会（於:埼玉県さいたま市）
4日	明治大学校友会栃木県支部役員会（於:宇都宮市）
6日	東郷団地夏祭り
8日	県南6市議会議長会議員研修（於:栃木市）
11日	『わかば会』奉仕作業
15日	栃木県戦没者合同慰霊祭（於:宇都宮市）
17日	伊藤正実・つくばみらい市議と面会
18日	こらぼ茶話
20日	大谷の夏祭り もおか木綿踊り
25日	議員協議会 議会活性化等検討委員会
25~26日	全国若手市議会議員の会総会・研修会（於:愛知県名古屋市）
27日	やまさわの里納涼祭
29日	一般質問の通告書を提出
30日	質疑・一般質問調整会議 ※その後、市の担当課と接見 関東若手市議会議員の会栃木ブロック研修会（於:日光市）
31日	社会教育委員兼公民館運営審議会委員会議

9月

1日	9月定例議会開会
5日	あいさつボランティア とちぎボランティアネットワークとの打ち合わせ（真岡自然観察会の活動として）
6日	『ひばりの会』定例会
7日	質疑・一般質問1日目
8日	質疑・一般質問2日目 ※この日、2人目として登壇 真岡地区区長会との意見交換会
9日	最終処分場建設現場を視察（於:芳賀町）
10日	真岡中学校、真岡東中学校運動会
11日	『病児保育』についてヒアリング
12日	あいさつボランティア 民生文教常任委員会1日目
13日	民生文教常任委員会2日目
14日	台町健康教室 真岡青年会議所総会（於:日光市）
15日	決算審査特別委員会の通告書を提出 ※その後、市の担当課と接見
16日	大谷地区健康福祉サロン
17日	真岡小学校、真岡東小学校、真岡西小学校、亀山小学校運動会
18日	『地域共助活動推進事業』についてヒアリング
20日	決算審査特別委員会にて質疑 議員協議会 議会活性化等検討委員会
21日	交通安全指導（高間木の交差点にて）
22日	関東若手市議会議員の会役員会（於:東京都豊島区）
23日	9月定例議会閉会※『まちかど美術館』整備のあり方について反対討論 小学校統廃合に関する勉強会
25日	大谷地区敬老会
26日	あいさつボランティア